

東京大学CEDEP・大阪総合保育大学総合保育研究所 共催 シンポジウム

保育の質評価スケールの 現在とこれから

2025年11月29日（土）

第一部10:00～12:00

第二部13:30～16:00

受付 9:30

福武ラーニングシアター

参加費無料

事前申込制 先着150名

申し込み：CEDEPのWebサイトから

www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/eventlisting/symposium/20251129symposium/

保育の質が注目される中、日本でも、保育の質評価スケールを用いた研究や実践が積み重ねられてきました。本シンポジウムでは、これまでの研究や実践を紹介すると共に、その利点と課題も含めて今後のあり方について考えます。

□ プログラム

開会挨拶 大方美香（大阪総合保育大学 学長）

企画趣旨 野澤祥子（東京大学CEDEP 特任教授）

第Ⅰ部：保育の質評価スケールに関する研究

海外で開発された保育の質評価スケールの概観

埋橋玲子（大阪総合保育大学 特任教授）

保育環境評価スケールが示す保育の質：現状・向上・子どもの発達への影響

藤澤啓子（慶應義塾大学 教授）

日本における0歳児からの保育の質に関する縦断的研究

野澤祥子（東京大学CEDEP 特任教授）

幼児教育における保育実践の質評価スケール案の開発

掘越紀香（国立教育政策研究所幼児教育研究センター
副センター長）

質疑応答・議論

第Ⅱ部：保育の質評価スケールの実践

保育の質評価スケールを用いた実践事例

岡部祐輝（高槻双葉幼稚園 園長）

福原由梨（豊中幼稚園 主任教諭）

小井手瑞代（守口市／さくらんぼ保育園 副園長）

保育の質評価スケール（ITERS/ECERS）の使い方

埋橋玲子（大阪総合保育大学 特任教授）

*『新・保育環境評価スケール①3歳以上』『同②0 1 2歳』（法律文化社）の使い方を説明します。

*参考図書『なんとなくをひとつひとつ 保育のABC 見直しガイドブック 「保育環境評価スケール」活用法

質疑応答